

令和4年度第3回摂津市産業振興アクションプラン懇話会 議事録

日時： 令和5年3月20日（月） 14時00分～16時00分

開催方法： オンライン（実会場）摂津市役所本館4階401会議室

出席者： 委員 岩橋 亮 委員長
高田 行彦 委員
谷川 幸広 委員
小川 佳美 委員
小石 英司 委員
島内 嘉紀 委員
橋口 勝利 委員
渡邊 勝彦 委員

事務局 鈴木、小西、池上（摂津市産業振興課）

配布資料： ①次第
②令和4年度第3回産業振興アクションプラン懇話会
③提案議題
④ハローワーク茨木雇用情報

議題： ①提案議題1 摂津市の特にものづくり事業者と摂津市民が交流できるイベントの開催について
②提案議題2 労働関係の現状・対策・展望について
③提案議題3～8について

【事務局】

（資料1、2を基に懇話会のタイムテーブル、目的等について説明）

議題1. 提案議題1 摂津市の特にものづくり事業者と摂津市民が交流できるイベントの開催について

【委員】

ありがとうございました。

それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。提案議題1「摂津のものづくり事業者と摂津市民が交流できるイベントの開催について」ですが、こちらの提案委員は私となっております。まずは、私から本提案議題の提案理由、提案内容について説明をさせていただきます。

選んでいただいてから、提案の背景となる原点の経験があるなと思いましたので、私事ですが、お話させていただきます。私は大阪府島本町の出身なのですが、当時、町内に住友特殊金属という会社がありました。今はNEOMAXという名前ですが、年に1回、地域の人向けにお祭りをしていました。学校で工場見学に行った記憶もあります。親がここで働いているという友達もいて、子供心にいい会社だなとか、ここで働いてもいいなという風に思った記憶が残っております。ただ、大学で就活するときには、選択肢が上場企業ばかりで、中小企業はなかなか選択肢に浮かびませんでした。私自身の体験として。上場企業に就職して、今度転職するときには、地元関西で働けて通勤がないところがいいなということで税理士法人、20人くらいのところに転職しました。今振り返ると、ふるさと、島本町で働くという選択肢が当時なかったです。また、そういうメッセージをどこかから受け取った記憶もないなと思いました。この提案で思ったのは、20代半ばから30代前半、これから本格的にキャリアをどう描いていくのか、自分の人生を考えるタイミングで、摂津市で働くという選択肢があることを思い出していただく。そういう中長期的なメッセージを含めて、繰り返し伝えられたらいいのではないかと思います。そこで考えたのが交流イベントです。これは皆様の議論の中で出てきた「人材不足の解消とマッチングのきっかけづくり」、「摂津市で働ける会社があるという認知度の拡充」、「体験によってものづくりのまち摂津を実感する」、「摂津ブランドの市民への浸透」、「将来的に子供・学生に摂津で働くという選択肢を思い出してもらおうきっかけづくり」を行政として伝える必要があるかなと思います。それをどのように実現するかとなると、参考例を挙げさせていただいたように、和歌山ものづくり文化祭や吹田産業フェア、たかつき産業フェスタというお祭りのようなイベントをするというのが1つ。あるいは、まちゼミの工場見学版、最近オープンファクトリーと言うらしいですが、予約制で工場見学、ものづくり体験ができるイベントを定期的に行う。また、来られない人に向けて、できたらコンテンツとしてYouTubeで体験の様子などを蓄積して、ずっと発信し続けるというようなことができればいいのではないかと思います。以上が私の提案内容になります。

これについて、実現を目指す場合の課題やもっとこうの方がいいのではないかな、こんなことならできるのではないかなというような皆様のご意見をいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

この意見自体は僕の提案と繋がっていて賛成です。まず確認したいのは、今挙げられた提案の中で、既に摂津市でされていることや似たようなことがあるのかということです。これは事務局に伺った方がいいですかね。どうでしょうか。

【事務局】

例えば、カネタの鉄工所さんが溶接女子プロジェクトということで、女性の方にも溶接などの鉄工所の仕事に触れていただいて、まさに働く場として知ってもらって選択肢に入れていただく、また、地域にこういう会社があるというPRのために会社として取り組まれています。参考例として委員にも書いていただいています。また、今、ビジサポでもMVCの本庄さんという方がもともとものづくりの会社をされていた方ですが、市民の方にも体験

してもらえ企画を考えて、そちらの方にシフトしていこうというお話も聞いています。こちらは商工会さんの方が詳しいかと思えます。そういう具体的な取り組みをされている事業所様は市内にもいくつかあるかなと思えます。

【委員】

ありがとうございます。個別ではされているところはあるのかなという印象ですね。市としては、今までなかったのではないかなというのが私の認識です。補足等あればお願いします。

【委員】

はい。事務局がおっしゃったものづくり共創協会さんは立ち上げたばかりですが、ものづくり企業の技術やソフトウェア的なものを承継するために、いろんな会社がマニュアル化したり、数値化したり、動画を撮ったりして技術を残すことを目指している団体と聞いています。

また、商工会では、昨年度と一昨年度に求人のために、摂津市内の工場2社をオンラインで見学できるようにして、会社の魅力を発信してどんな仕事をするのか、どんな労働環境なのかを求職者の方に知っていただきました。採用は1人くらいだったようで、そこまですごく効果的ではなかったですが、摂津市内の中小企業でも働きやすい環境であることをPRさせていただきました。

まちゼミはどちらかという商業系で、工業事業者は手付かずという状況になっております。以上です。

【委員】

ありがとうございます。他の方がいかがでしょうか。

【委員】

イベントの企画は、中小企業さんが独自でされる場合もあれば、市がされる場合もあるでしょう。企業さんがどういうことをしているのかをPRするとき、誰か全体を見られる仕掛人みたいな人がいないと、集約ができないのではないかなと。どこに行ったら取り上げてもらえるのかというようなことになりかねないと思えます。というのも、私も農業の関係ですが、阪南大学の先生と生徒さんたちとっしょに、鳥飼なすの種蒔きから収穫までをビデオ化していて、最終的にはそれを見れば鳥飼なすの作り方やどういうところが大変かが分かるものを作っていこうとしています。今していることすら、どこで発信したらいいのか分からない。逆にそういうことを知りたい方もいると思えます。要は、とりまとめをする部署がないとちょっと難しいかなと思えます。

【委員】

ありがとうございます。そうですね。できれば継続的に運用していく組織が必要かなと私も思います。

その他、いかがでしょうか。

【委員】

今おっしゃったように、フォーマットがあって、そこに簡単にはめ込めばアレンジしてくださるとか、どこかにまとめてアップしてくれるところがあればやりやすいです。ただ企業主体でやるとなると揃わないというか、すごく詳しく説明する企業もあれば、ラフにしか説明できない企業もあると思います。何か4コマ漫画みたいに、みんな同じような基準で見られて、その中でもっと詳しく見たい方は詳しいところに持っていけるような、目次みたいなものを作っただけだとありがたいのかなと思いました。

【委員】

ありがとうございます。他はいかがでしょう。

【委員】

少し角度を変えたいと思いますが、いくら会社がいいところばかり説明しても内輪だけですよね。もっと上の方にあげて、例えば、僕も一度経験しましたが、大学の教授が商業まちづくり、商店街活性化のセミナーをします。やはり子供は先生の言うことはある程度よく聞きます。でも、こちらが案内してもなかなかこちらを向いてくれないわけですね。まず段階的に先生のような人に「こういう商店街で働いたらいいよ」とか「活かす方法があるよ」ということを言ってもらって、子供が納得してくれれば初めて就職になると思います。というのも、離職者がものすごく多いということなんですね。最初、会社は良いことばかり説明して、実際入社したら話が違うではないかと。子供が喜んで来るという方向にしないと、とりあえず就職したらいいという感覚をなんとかできないかと思います。少し角度が違うかもしれませんが、そのメリハリを上段階で子供に教えて、子供が選ぶと。今、先生がこうしたらどうだというのを示しているような感じがしますからね。安易に就職するのではなく、もう少し認識を持って会社に入ってほしい。そうしないと、すぐ辞められたら繰り返すですからね。先生方は生徒に対してそういう指導をしているのか、できるのか。会社の方からの話ですけどね。

【委員】

ありがとうございます。

【委員】

今、摂津市にもものづくりのイベントがあるかということをお聞きしていましたよね。だんだん話があちこちになっていますが、摂津市にはそういうものは何もないですよね。

【事務局】

今のところはないですね。

【委員】

前から市が言っている展示会のこともその中の1つだと思いますが、市がこの話をして

いて動かなかつたら、どんなに話をしても同じ話をするばかりで全然前に進まないのではないかな。前に進めようと思つたら、やはり市がこういうことをすると言つて、みんなを引っ張ってもらわないと、毎年同じ話をしている気がしてしょうがないです。「ものづくり」と言うけど、工業部品を作るのも「ものづくり」だし、農業で食べ物を作るのも「ものづくり」。どこまで広げて「ものづくり」と言っているのか、そこもよく意味が分からないです。よく地方のものづくりフェアに出展しますが、半分以上が食べ物です。そのあたりを市自体がどこまでをくくつて「ものづくり」と言うのか。資料を見たら鉄工所の話を書いています、鳥飼なすみたいに作っているものも「もの」ですから。そのあたりもきちんと話をしないと、一方は納得して、もう一方は何も分からないというようなことがたくさん出てくるのではないかな。本当に何かしようということでは話してくれればもっと意見も出るだろうけど、何をどうしたいのかが全然見えないです。

【委員】

ありがとうございます。事務局はどうですか。

【事務局】

はい。まず私は懇話会を意味のあるものにしたいという思いがあるので、その位置づけを事務局としてもはっきりする必要があるかなと思っています。今、何をしているか分からないというご不満、ご意見をいただいています、そこはもう少し明確にしていけないといけないなと思っています。「ものづくり」というのは、鳥飼なすなどを作る農業、鉄工所さんやプラスチック成型加工などのものづくり企業さんがありますが、そこは2つ分けて考えないといけないのかなというのはもちろんです。当初から私たちがよく言っている「ものづくりのまち摂津」、「4000事業所」というのは、製造業ですよね。農業ではなく、製造業の会社さん中心でいろいろな議論をしてきたと私たちは認識しています。当初はMOBIOの企画展で共同出展して、摂津のものづくりの事業所、技術をよりPRしたいということで取り組みました。それがコロナもあって1年目しか出展ができず止まってしまつて、ずっと議論がされていたかと思ひます。今回の提案議題に繋がっているところとすれば、側面は少し違ひますが、昨年、提案議題で事務局からポリテクセンターさんと連携して人材確保、育成の取り組みをしてみたいというお話をさせていただきました。これまでの取り組みと成果という部分では、お仕事フェアということで、特にものづくり企業に特化することなく、一般のいろんな会社さんにご参加いただいて求職者さんとマッチングするという取り組みをしていました。そこをポリテクセンターで職業訓練されている求職者さんと市内のものづくり企業さんがうまくマッチングできる仕組みを作ろうということで今回取り組んで、70名ほどご参加いただきました。まだ採用結果はでていませんが、昨年のお仕事フェアでは来場者が10名くらいしかいらつしやらなかったところ、今回は70名ご参加いただいて、一般求職者さんもそれなりにいたということでした。やはり具体的な展望を持って取り組めば、形になってくるのかなと思っています。ただ、委員がおつしやるところの共同出展とか会社様のPRできる場をもつと作れということに関してはできていないのかなと思ひます。私としては、今そういう取り組みが1つできたので、今後そういった具体的な議論をして、1年後、2年後になるか分かりませんが、形にしてい

くことができる、そんな懇話会にしていけないといけないという認識はあります。現時点ではまだまだお厳しい言葉をいただいている状況で、私も長年いる中でなかなかできていないところもありますが、真摯に受け止めながら、私としてはそういう思いを持っているということをご理解いただきたいなと思っています。また、別の委員からも特産品のPRや収支の部分での議題もいただいていますので、後半でお話できたらと思っています。厳しい意見をいただいて、具体的にお答えできないことが心苦しいですが、そこは私もある程度認識をしているので、しっかり考えていきたいと思えます。建設的なご意見をいただきながら、いっしょに揉んでいきたいなというところが事務局の考えでございます。

【委員】

ありがとうございます。亀岡でもまちゼミの案内が市の広報で来ますが、認知度拡大の効果が結構大きいと思います。参加する、しないに関わらず、こんな会社があって、こんな体験ができるんだというのが広がっています。最初は手を挙げるところが少ないかもしれませんが、だんだんと興味を持つところが増えていったらいいのかなと思います。まちゼミの工場見学版みたいなものができたらいいかな。それが盛り上がってきたら、1～2日まとまったイベントを1か月の間にするとか、そんなことができたら面白いのかなと思います。

それでは、1つ目の議題を通じて、事務局のご意見、お考えがございましたらお願いします。

【事務局】

はい。これまでの2年間の懇話会では、報告が中心になっていて、次の施策の展開を提案する場がありませんでした。昨年、第3回の懇話会で、課題として認識しているものに対してこういう取り組みができないかと考えて、1つ形にできました。事務局としては、今回いただいた議題について、キーワードとしてオープンファクトリー、まちゼミの工場見学版ですね。その取り組みを発展できないかという思いはありました。委員からも言っていたように、それをしていくための仕掛人が必要だということもごもつともです。仕組み作りをしっかりとやっていけないといけないと思っています。ただ、市としては、あくまで市が完全に主導していくかと言うと、そうではないのかなという思いもあります。市、企業様、商工会さんなどの関係機関がうまくバランスを取りながら、施策に取り組んでいく必要があると思います。他市を見てみると、実行委員会の形ですとか、あるいは市が主導しているところもあるかもしれませんが、そこはうまくバランスを取ってやっていけないといけないのかなと。市が完全に主導するべきものではないのかなという認識はありますので、そこはどうやってうまく作っていくのかなと思っています。今までのお話を聞かせていただくと、課題が多く、すぐに形にはできないのかなと思います。ただ、オープンファクトリーは最近のトレンドでもありますし、実際に取り組まれている市内の事業所様もいくつかあるようなので、研究をしていけたらいいなという思いではあります。またどこかのタイミングでお話しさせていただく機会があるかもしれませんので、その時はまたご意見いただけたらなと思っています。

議題2. 提案議題2 労働関係の現状・対策・展望について

【委員】

ありがとうございました。それでは、次第に沿って次にまいりたいと思います。提案議題2「労働関係の現状・対策・展望について」ですが、まずは、提案委員より本提案議題の提案内容、提案理由についてご説明をお願いしますでしょうか。

【委員】

はい。この議題を挙げさせていただいたのは、皆様が議論されていたように、労使関係の問題はこれから複雑になっていきますので、丁寧に取り上げる必要があると考えたからです。前回、前々回の懇話会でビジネスサポートセンターの成果が上がってきているということで、これは喜ぶべきことですが、今の状況を見るとそれだけで満足していいのかなと思っています。優れた企業さんの取材をしてみると、うまくいっている企業の分野などが偏っているのかなと思うところがあります。比較的、体力のあるところや消費者向けの商品を提案できるところが、成功事例が多いです。これは喜ぶべきことですが、摂津市は多様な企業がありますので、網羅できていないことに対して目を向けるべきだと思っています。それから、今、賃上げの話があって、大企業で賃上げに伝えていくという流れがありますが、これもすべての企業ができるわけではない中で、給料など待遇面での問題に対応できない企業へのサポートも出てくると思います。さらに、人材不足になってくると、設備投資できる企業が業績を上げていくと考えると、どんどん問題が複雑化してくる、中堅企業とか中小企業というところで、摂津市の中でも問題が出てくるだろうというところを拾っていく、声を受け止めていくために現状の把握が必要ではないでしょうか。そこで考えたいことは3つあります。1つ目は、摂津市の現状です。前回のアクションプランの中でも就労や雇用安定の支援というところでいくつかの声は上がっているという話ですが、企業を経営している方の意見を取り上げて議論していく枠がないです。働きたいという人の意見は何えていますが、実際に経営されている方が人材確保にどれだけ悩まれているのか、どうしてうまくいかないのかという話を取り上げて議論していかないと、動いていく方向にいかないのではないかとというのが問題意識です。2つ目に、先ほども提案がありましたが、小学生とか大学生に声をかけるのも大事ですが、実際に働くことに繋がる方、例えばポリテクセンター、あるいは働くことを前提に学んでいる中学生、高校生もいらっしゃると思います。そういう方たちと地域の企業がどう繋がっていくのかというところの支援も進めていく必要があるかと思っています。3つ目は、今日も皆様が挙げられていますが、委員の方々が人材確保に対してどのような意見や問題意識をお持ちなのかを伺うことによって、来年度以降のアクションプランや市政の動き方について考える必要があると考えています。よろしくをお願いします。

【委員】

ありがとうございました。1つ目に摂津市の現状を知りたいということですね。2つ目が実際に働くことに繋がる世代に対して地域の企業とのつながりはどうなのか、3つ目が人材不足に対する問題意識はどうなのかという話でした。また、本提案議題は、労働関係

の現状ということですが、別の委員からも市内企業の雇用状況について危惧されておりまして、ハローワーク茨木の雇用情報を関係資料としてご提供いただいております。よろしければ、商工会という事業者の支援機関というお立場から市内企業の雇用状況、また、この具体的な統計数値についてもご説明をお願いできればと思います。

【委員】

ハローワーク茨木の雇用情報の資料をご覧ください。提案したのが2月でしたので、その時点での情報になっていますが、最新のものと0.1ポイントくらいの違いなので、大体同じような内容だと捉えていただけたらと思います。資料の「9. 地域別求人・求職バランスシート」の「①地域別に見た有効求人倍率(合計)」をご覧ください。こちらはフルタイムとパートの合計ですが、茨木市、高槻市、摂津市、島本町の4つのグラフが出ていまして、摂津市だけ1.92と山のようなグラフになっていると思います。1.92なので有効求人倍率が高く、非常に求人に苦戦している市だと捉えられます。隣の高槻市は0.86で求人数は4,000、求職者数は4,700人で700人余っているという形で満たされています。職種などで違いはありますが、摂津市と比べたら対照的です。高槻市はベッドタウンなので、企業のわりに人口が35万人くらいと多く、恵まれていると思います。茨木市がその中間くらいで、求人数が5,000、求職者数が3,800人、有効求人倍率が1.31なので、こちらも不足している状況です。茨木市は、北部に工業団地ができたり、茨木インターの近くに大きな物流施設ができていたりして、常にそのあたりの会社の人が入り足りないという状況です。島本町は、全体的に規模は小さいですが、それでも0.5ということですから、他の市とは規模が違うので比較にならないかなと思います。それから、ここに載っていませんが、大阪市が摂津市に隣接してしまっていて、人口、求人数ともに桁違いに多いので、人のリソースとしては非常に大きいと思います。隣接区としては東淀川区になりますが、そのあたりの方々に働きに来てもらうというのは非常に大事な事かなと思います。また、摂津市は人口が86,000人ですが、昼間人口は10万人です。つまり、2万人くらいが市外から働きに来て、1万人くらいが市外に働きに行っているという感じだと思います。摂津市がこれから産業を活性化させていくためには、いかに働きやすい街を目指すかが鍵かなと思います。もう1つ注意点がありまして、有効求人倍率が1.92ですが、摂津市は北側が住宅地、南側が工業地帯になっていますので、北側はまだ人が来るという状況になっています。南側は1.92より厳しくなっています。北側には交通の便もJRや阪急がありますので、南側の工業地帯はより厳しい、数字以上に厳しいと見ていただけたらと思います。以上です。

【委員】

ありがとうございます。また、事務局からは、①昨今の労働事情をどのように捉えているのか、②何が課題であると認識しているのか、③解決するための具体的な方策等についてお聞きしたいということです。こちらの議題について、委員の皆様いかがでしょうか。

もう少し個別に見ていきましょうか。「摂津市の現状を知りたい」とのことに回答していただきましたが、その点について何かございますか。

【委員】

先程の説明はよく分かりました。摂津市に人材が集まらないということは、摂津市の人口が他市に比べて少ないのは分かりますが、逆に摂津市は大阪市と隣接していることも強みだと思います。それは摂津市の人材の問題を解決できるというメリットの方には働いていないという分析ですか。それはなぜかと言うと、これだけ見ると摂津市の人材や土地が悪く見えるので、その原因をもっと詳しく知った方が対策になるのかなと思ったので伺いました。その点はいかがでしょう。

【委員】

まず、安威川以南が非常に交通の便が悪いというのが第一です。いわゆる鉄道が走っていないので、車で通える企業はいいですが、そうでないところは自転車かバイクでの通勤になってしまいます。パートの社員さんを中心に、やはり近隣から交通費5,000円以内くらいに収まる地域から来てもらう。寝屋川とかもありはありますが、鳥飼大橋、寝屋川橋ともに渋滞しますし、できれば茨木、高槻、東淀川区などの近いところから来ていただきたいです。ただ、大阪市はたしかに人口が多いですけれども、ライバル企業も多いです。オフィスワークなどの摂津市には無いホワイトカラー的な企業が大阪市には多いので、逆にそういった企業に摂津市から人が取られています。摂津市は、どちらかと言うと物流や工場が多いので、その点が不利になっているのかなと感じます。大阪で事務員を募集するより摂津で事務員を募集する方が、非常にハードルが高いというのが現状です。

【委員】

少なくとも、電車などの交通インフラの利便性の高さは、摂津市ではあまり得られていないと考えると、大阪市に近いことのメリットはわりと出ないですね。ビジネスマッチングをしたり、発信したりするときに集まりやすいかとなると、少なくとも交通インフラの不便性を見ると、そこへはなかなか来にくいのかなと。そう思ったときに、どこに対して支援をしていくと、摂津市の企業にとってマッチングができるのかということを考えていくことがもしかしたら必要になってくるのかなと、今の報告を聞いて感じました。

【委員】

鉄道はだめですけれども、幹線道路などは充実しているので、その関係でトラックや物流関係が発達しています。国土軸と言って、ちょうど日本の縦と横がクロスしている、近畿道が縦に走ってしまっていて、名神や中国道が横に走っています。物流会社にとっては、非常に活動しやすい地域ではあります。ただ、トラックはたくさんあるけれど、人がいないというのが悩みですね。

【委員】

ありがとうございます。その他、ご意見ありますでしょうか。

【委員】

会社の人材が少ないということですが、立場を変えたら、住むにはいいところだという市民の声がものすごく聞こえるんですよ。というのは、住めば都ではないですけども、住民としてはそういう面もあります。高速道路に乗るにも、電車に乗るにも。いい例が、正雀の方で住宅がどんどんできています。昔は建売が何年も売れませんでしたけど、今は注文住宅がどんどん建っています。住むにはものすごくいいところなんです。ただ、企業となると、ちょっと反比例するような感じで、どうなのかなと思うのが現状ですね。企業向けの話をしてはいますが、住む側としてはいいところだと。繁華街もないし、交通の面も含めていいところだと思います。

【委員】

ありがとうございます。では、2つ目の「地域の企業とこれから働こうという方との繋がり」についての現状はどうでしょうか。

【事務局】

事務局から製造業の社長の方々にお聞きしたいことがあります。例えば、ポリテクセンター関西さんでの取り組みを市が1回しました。以前、星翔高校さんなどの市内の工業系の高校さんとやり取りをしたけれども、コロナで立ち消えてしまったというお話もあったと思います。今現在、有効だと考えられるような求人の方法、ハローワークさんではないだろうと思うのですが、優秀な人材をどういうところから採用されたのかとか、どういう方が定着されているのかとか、生の声を聞いてみたいと思います。そういったことが何かあればお願いします。

【委員】

昔はハローワークで募集してもわりと集まっていたんですが、今はお金をかけていろいろなところに求人を出しても、面接に進むときに来ないこともあります。やっぱり魅力を感じるようなものがないのかな。製造業はとにかく地味な作業だし、なかなか綺麗な仕事でもない、在宅勤務もない、休みも完全週休二日制というところまで進んでいない。たくさん乗り越えないといけないハードルがあります。逆にこうしたらいいということを知りたいです。今、大手が給料を上げていますが、私たちから言わせれば、大きなところは給料を上げられるだろうけど、中小企業はコロナで大変なところもあっただろうし、ぼんぼん給料を上げられるわけでもないです。この話をしたら長くなるのでこれくらいにしておきますけど、私たちももっとこんな風にした方がいいのではないかと聞いてほしい。それと、交通の便の話ですが、鳥飼は本当に悪い。道も混むし、駅から歩いたら30分以上かかるし、その辺ももう少し市で、例えば朝だけでもバスの本数を増やすとか、鳥飼の工場があるところへ出すとかできたらいいかなと思います。あくまでちょっとした希望ですけどね。あと、女性を雇うときに、保育所や託児所のようなものがあって女性も働きやすい環境ができてくるとありがたいですね。お願いばかりになってしまいますが、そういうことをもっと増やしていかないと、人が集まらないのかな。はっきり言って、土地に魅力がないと思うんです。あれば嫌でも来ますからね。そのあたりをどうしたらいいかなと思って、今回の提案議題にも書かせてもらいましたが、皆さんどうですかね。昔

は親子や夫婦で町工場をやっていたと思います。それで息子に跡を継がせない。例えば、父親が高級車に乗って、母親がブランドものを身に付けて派手な格好で仕事をしていたら、子供に仕事をさせると思う。実際は、父親が軽トラに乗って毎日遅くまで仕事して、母親も汚い格好していっしょに仕事をしていた。私の意見ですけれども、ものづくり企業に後継ぎがないのは、それがそもそも間違いだったのではないかと思います。ものづくりはその人たちが最初に頑張ってくれたおかげで今があると思いますが、大きいところはそういう人間ばかり使って安いお金で安いものを作らせて、今その人たちが辞めていって困っているところがたくさんあると思います。これを機に皆でもっともって考え直していかなないと、日本のものづくりはもっともって駄目になっていくと思う。日本は自分がやってきたことを平気で他所へばらまいてしまう。この話をしたらまた長くなってしまうので、このくらいにしておきますが、たくさん要因はあると思いますよ。以上です。

【委員】

ありがとうございました。他の方はどうでしょうか。

【委員】

はい。先程おっしゃったように保育所の問題はずっと言っていますが、企業保育できる会社さんを増やしていただくといいのかなと思います。保育所に子供を入れられない方が多いので、摂津市に行けば保育所に落ちることはないというくらいの大きな目標を作っていただきたいです。摂津市に住んでいる方が摂津市で働くためには必ず優先して保育所に入れるとか、あと、交通費の問題で、摂津市に住んでいる方が摂津市の企業に勤める場合は、無条件に3,000円付けてくれるとかですね。外から呼ぶと交通費を払うわけなので、やはり近くから来てくれる方はすごく頼りになります。遠くから来られて電車の遅延で遅れるということも全くないですし、徒歩や自転車で来てくれる方は体力を使って来てくれるので、徒歩手当などを市の補助ではなく企業努力でもいいので、そういうものをつけられたらいいと思います。あとは、社宅制度なんかもあっていいのかなと思います。市内で空き家となっている物件をいくつかの企業が集まって社宅として安く貸し出すことで、摂津市で働くのに住むところも仕事も困らないというような保障とまではいかないですが、摂津市の中で完結するようになれば、交通の問題などもなくいけるのかなとは思いますが、以上です。

【委員】

ありがとうございました。提案議題2について、他に何かご意見はございますか。

では、本提案議題については、一定のご意見が出たと思います。事務局はご意見を踏まえてどのようにお考えでしょうか。

【事務局】

課題の整理と次への展望のヒントというところでご意見をいただきたいと思い、ご質問もさせていただきました。以前からご要望、お話をいただきながら、できていないところがあるということはこちらも認識をしていました。今回は、提案議題を産業振興課が独自

で施策を進めていけるものに絞らせていただきましたが、こども食堂や学童保育所、バスの運行などは、全庁的な話で正直難しいところもあるかなと思っています。ただ、1つ1つ直接担当課にこういうことだったらできないかという話をお繋ぎすることは本来もう少しさせていただけるかなと思いますので、そちらはもう少し考えたいと思います。正直なところ、1つ1つの提案に対しては難しいかなと感じています。ですが、市内の事業所様の認識や厳しい状況が改めて認識できました。交通の便は、やはり大きな課題で大きな要因の1つかなと、その解決について考えていく必要があると思いましたので、今後の課題とさせていただきます。それくらいしか今は言えないですが、これでまとめとさせていただきます。以上です。

【休憩】

議題3. 提案議題3～8について

【委員】

それでは再開したいと思います。1～2以外の議題ということですが、議題1～2で間接的には触れたものもあります。提案3～8で人材確保・雇用のテーマ以外に挙げていただいた提案議題について、各委員の皆様から順に説明をお願いしますでしょうか。では、提案議題5について提案委員からお願いします。

【委員】

先ほどお話したこととかなり重複しています。「摂津市に住んでいてよかったな」とか「摂津で子育てをしてすごく助かった」というようなことになればいいなと思っています。よく「摂津市のランドセル制度いいよね」と言われます。何を買おうとかあれこれ考えなくていいし、子供たちの差別もなくなるのであれがいいということ言われます。そんな風に学童保育の代わりにボランティアでも寺子屋みたいなものが地域にあるとか、働くお母さん、お父さんたちの補助ができればいいなと思います。以上です。

【委員】

ありがとうございます。このお話については、皆様いかがでしょうか。

【委員】

今おっしゃったことは、まさにこれからの摂津市の特徴を作り出していくきっかけになるのではないかなと思います。私も提案させてもらっているように、今の摂津市には特徴的なものが何もないですよね。今、農業の中でも特産品として鳥飼なすや、北大阪農協さんといっしょに特産品会に向けて新しいお米作りもしています。摂津市に行けばこれがあ

るといようなものを打ち出していかないと、今後何をするにしても摂津市が避けられかねないのかなと思います。私も元々市役所の職員だったので、事務局が先ほど答弁したようにどうしても課だけで物事を捉えがちになるというのは分かります。やはり横の連携をした中で、空き家の話や保育所の問題など、働きやすい環境を作っていくことは非常に大事なことだと思います。そうすることで、他所の市にはないことを摂津市でやっているということで、人が集まってくると思います。そういう風な大きな観点から取り組んでいかなければならないのかなと思います。

【委員】

ありがとうございます。そうですね。課の枠を超えたプロジェクトチームみたいなものがあるといいですね。そうしましたら、事務局からは何かございますか。

【事務局】

はい。提案議題6にも触れていただいたので、まとめてお話しさせていただきたいと思っています。

提案5については、子育てするなら摂津というように特徴的に今後していけるような部分であるのかなというのはまさにその通りだと思います。ただ、私たちの今の立場から言うと、非常に難しいというのが正直なところです。個人的には、そういう取り組みは本当に必要だろうと思います。今は部分的にお手伝いをさせてもらうことができればというのが現状かなと思っています。具体性がなく、非常に抽象的で申し訳ないです。

提案6の特産品の位置づけやWE米についてですが、今年度、大阪成蹊短期大学さんとお話させていただいて、鳥飼なすのレシピを作っていただきました。そして、この年度末に大学へ連絡を取りまして、クックパッドに3レシピ挙げるように調整をしています。それを大学と市の農政系のホームページにも載せようと思っています。令和5年度には、農協さんと大阪成蹊短期大学さんと3者で連携して、レシピ開発をしてもらおうと動いているところです。まだどういう形になるか分かりませんが、後期の授業でレシピ開発をしていた話になっていますので、また進展を報告させていただきたいと思っています。事務局からは以上です。

【委員】

ありがとうございます。続きまして、提案議題7について、提案委員からご説明をお願いします。

【委員】

はい。私は立場が少し違って、工業のことはわかりませんが、商業者は自由に企業を立ち上げます。大型店ができて、小売店が衰退する。それに追い打ちをかけてコロナが発生しました。良いところと悪いところがはっきりして、これから返済など大変な時代に突入すると思います。その中で、新しい芽が出てきているのも、その人たちの支援を行政で協力してやってもらっているのも事実です。ですが、そこまでですよ。開店した後、コンサルを派遣してはくれますが、そこで詰まってしまいます。開店したらすぐお金が入る、

サラリーマンより儲かるという安易な発想をされますが、そんなに甘いものではないですし、そう分かっている企業を立ち上げるんですよね。それはそれでいいことだとは思いますが。具合が悪くなったときに、コンサルも含めて何かいい方法はないかと、世話をした以上は最後まで面倒を見てほしい。また、商店会の会員もどんどん減っています。次の人が入ってくれたらいいですが、まず退いたら入らないというのが現状です。そういう時代だということも、経営者の高齢化や後継ぎがないことも分かっていますが、諦めの心境が強いんですよね。アメとムチをうまく具合にできる方法があれば教えてもらいたいし、なんとか元気を出す方法があればまた協力してもらいたい。こんなことができるよということがあれば、行政の方へお願いしたいと思います。以上です。

【委員】

ありがとうございました。経営が難しくなってからのフォロー、会員数が減っているというご指摘ですね。このお話について何かご意見等ございますか。

【委員】

新規創業を促進していくというのはまさにその通りだと思いますが、事業承継の問題もありまして、今の後継者難という状況で非常に厳しい状態が分かります。一方で、やる気のある方も結構いらっしゃって、M&Aを促進していくというのも1つだと思います。今、税務署の情報で一番収益を上げているのは30代の経営者で、拡大志向が強くなっています。商工会でも今年、M&Aの買い手を促進していこうかなと考えています。コロナ禍で皆さん非常に厳しい経営状況になったのですが、コロナ禍でも比較的安定して切り抜けてこられたのは、多角化している事業者さんだったと思います。例えば、生産拠点を集約したり、ニアリーな業種にシフトしたりして切り抜けていた方が多いです。今、製造業が川上と川下に進出していますし、M&Aで今好調なところに吸収してもらおうというのも選択肢の1つだと思います。商店会さんでももう辞めたいとおっしゃるところがあれば、元気な会社に吸収してもらおうという方法で若返りを図るというのもいいと思います。M&Aを促進していくというのも1つだと考えています。以上です。

【委員】

ありがとうございました。日本公庫さんなんかでも事業を引き継いだ形で創業するという融資を促進していますよね。そうしましたら、事務局からは何かございますか。

【事務局】

まず、私たちでしたら、飲食店の創業者向けのテナント補助制度があります。これは、一旦、事業計画を作っていただいて、永続的に市内で事業を営んでもらえるように事業計画をしっかりと練った上で事業を始めてもらうためのものです。これから創業される方、創業5年に満たない方が対象になる制度です。そういった方の支援をしています。提案議題では、そのあとの支援も継続してほしいという意図だったと思います。そこは相談内容にもよりますが、しっかりしたご意思があって、現実的に経営を継続していける力があれば、ビジサポや経営コンサルタント派遣制度で相談していただけたらいいのかなと

思います。これは創業者の方には関係ないかもしれませんが、昨今、ご高齢の経営者の方が事業を継続していくのが非常に難しい世の中になっています。例えば、インボイス制度やキャッシュレス決済の導入などで苦勞されていて、コロナ禍でさらにそれが促進されたような状況です。淘汰されていく中で生き残っていく事業者さんがこれから100年、200年と老舗の企業になっていくという考え方もあるかもしれませんが、行政はいろいろな支援をしていく立場ですので、長く事業をされたいというところを拾っていく必要があるのかなど。そういったお声については、またご意見をいただきながら、拡充できるところを考えていきたいというのが私たちの立場でございます。

【委員】

ありがとうございます。前向きなプランや計画を立てて、それをビジサポさんや商工会さんがフォローするということを拡充できたらいいのかなど、お話を伺っていて思いました。

続いて、提案議題8について、提案委員からお願いします。

【委員】

はい。議論しつくされて順調にいつているとは思いますが、ビジネスサポートセンターの現状の相談体制について確認をお願いしたいと思います。現状、相談件数が急増してきたという報告を受けています。相談予約が1～2か月先まで埋まっていて、新規の予約が取りづらい状況だということを皆様ご認識されていると思います。その中で、より良く、潤滑油というか、新たな女性の相談員の配置などもされたと思いますが、今後まだまだ相談件数も増えると思われるので、何か対策があれば教えていただきたいです。私が1つ思ったのは、キャパがいっぱいのようなでしたら、摂津市のビジネスサポートセンターの相談以外に、例えば、大阪府のよろず支援拠点やきたしん総研という同じように無料で相談を受け付けてくれる機関との連携です。チラシを置かせていただくだけでもいいですし、ビジサポはキャパがいっぱいだけど、他にもこんな拠点があるよというように、機会喪失をなくしていく活動もいいのではないかなと思います。皆様のご意見を頂戴したいと思い、議題にさせていただきました。

【委員】

ありがとうございます。この件について、何かご意見ございますか。まずは、摂津市さんは拡充対策など何かお考えでしょうか。

【事務局】

まず、ビジネスサポートセンターについては、令和5年度に相談枠の拡充を実施していく予定です。令和4年度に特別枠として市内の事業者さんのニーズ、例えば補助金などの期間の限定がされるものについては、相談枠が埋まっている場合、急な対応に応じていました。なおかつ、これは国からの補助金で商工会さんに対応していただいていた。それを令和5年度は国の予算とは別で、市の予算で特別枠を設けるということで調整をしました。火曜日と木曜日に1日3枠の相談枠、これは継続していますが、それ以外にも緊急

の事業者さんのニーズに応えられるように、特別枠を正規に設けることになりました。また、予約が取りづらい状況の対応として、相談回数の上限を設定しました。イレギュラーな対応はありますが、基本、通常の相談は年間で6回、2か月に1回という形で、創業者の相談は年間で12回、1か月に1回は相談できるという形にしました。過去のアンケートを見ていますと、10回以上の相談者さんも非常に多かったので、商工会さんとも調整をして設定をしています。そういう風な形で対応するつもりでございます。

【委員】

ありがとうございます。では、委員の皆様、この件について何かご感想やご意見ございますか。

【委員】

他の支援機関との連携ですが、相談内容によって連携が必要なものに関してはさせてもらっています。先日、ビジサポで SNS の発信をしてくれる人材を社内で確保したいという相談がありましたので、早速きたしん総研さんに連絡しまして、今日、事業所に行って相談に乗っていただいています。事業承継の相談に関しては、事業引き継ぎ支援センターさんと連携して対応しています。今後は、必要なものは他の機関と連携を積極的にしていきたいなと思っています。

【委員】

ありがとうございます。他はございますか。では、最後、事務局から何かありますか。

【事務局】

基本的には、商工会さん中心にビジサポでいろいろな相談を受けていただいて、相談内容によっては、個別に相談させていただくこともありますが、各関係機関にもお繋ぎいただいているところです。北おおさか信用金庫さんとも各事業で連携させていただいております。市の方でも制度について共有させていただいて、商工会さんへお繋ぎもしますけれども、事前に情報としていただいて、事業者さんから相談があったときにお繋ぎできたらと思います。私たち産業振興課はなかなか情報を把握できていないこともありますので、もしよろしければ、こういう場を通じて、また情報共有させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

【委員】

ありがとうございます。これで、皆様の提案議題とそれに対するご意見、事務局からの説明、回答を聞いていただけたと思います。全体を通して、他に何かご意見等ございますでしょうか。

無いようですので、以上で本日の議事等、全て確認を行うことができました。

最後に、事務局からその他ということで、今後の懇話会について説明があるようです。

【事務局】

最初の資料の「次年度の懇話会について」をご覧ください。確定できているのは、令和5年度中に3回開催させていただくということだけだと思っておいていただきたいです。今年度開催させていただいたスケジュールを元にとすると、このようになるかなと思います。今日の懇話会でお話させていただいたように、懇話会の在り方や進め方を変えていくべきかなと考えております。また、来年度は任期が切れるタイミングでもあり、懇話会の進行についても見直すタイミングかなと思っておりますので、あくまで参考とってください。またご案内させていただければと思います。年度3回というところだけは継続したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【委員】

ありがとうございます。これを持ちまして、令和4年度第3回産業振興アクションプラン懇話会を閉会したいと思います。委員の皆様、議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。

【事務局】

委員の皆様、大変お疲れさまでした。それでは閉会とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。